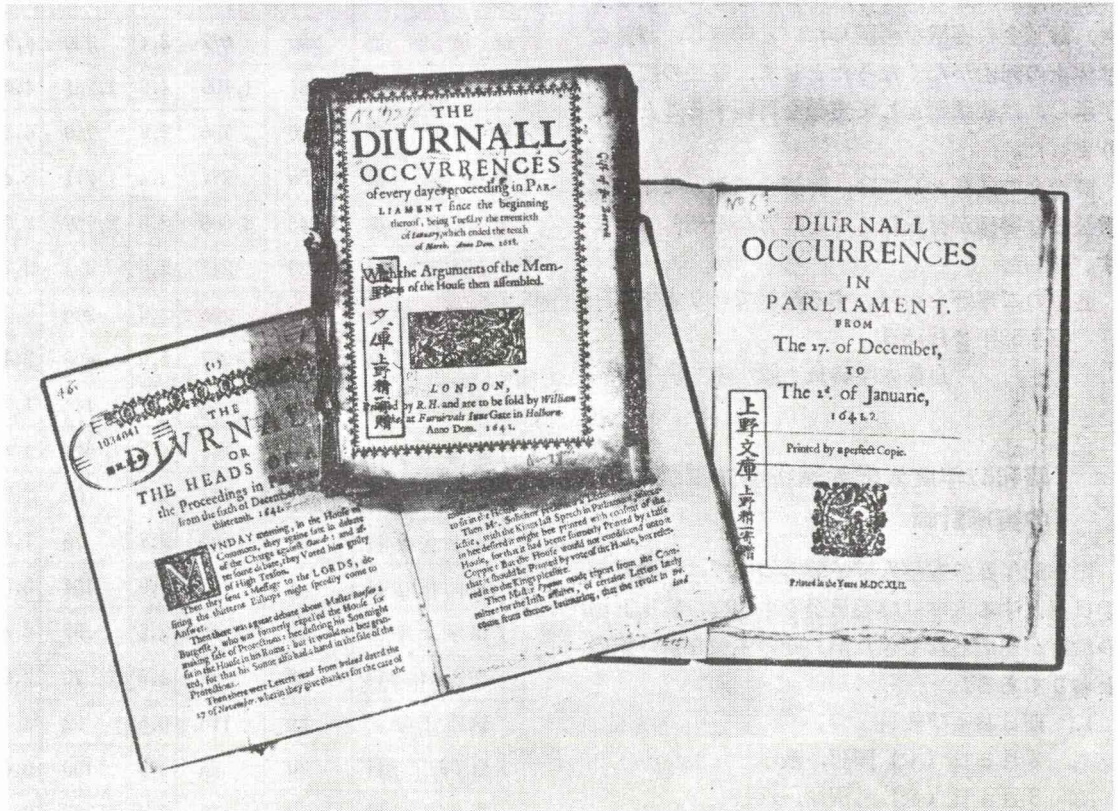


京大広報

No. 135

京都大学広報委員会



上野文庫蔵書の一部（経済学部図書室所蔵）

（17世紀のイギリスで刊行された国会議事録，1628年，1641年及び1642年のもので現在のジャーナリズムの先駆である 一関連記事4ページ「紹介」）

目次

分限処分の審議再開について…………… 2	＜随想＞ 思 い 出 名誉教授 奥田 東…………… 3
昭和52年度入学者選抜学力試験 の実施計画…………… 2	＜紹介＞ 経済学部の「上野文庫」…………… 4

分限処分の審議再開について

昭和48年1月16日開催の評議会において開始された本学経済学部竹本信弘助手の分限処分の審議については、総長の交代とともに同年12月18日開催の評議会において、議長である総長は、議長として審議を進める立場上、さらに理解を深めるため、当分の間審議を休止したいと申し出、評議会によって了承され今日に至ったものであります。

さる2月1日開催の評議会において、議長は、一定の理解に達したので、本日からこの休止を解き、評議会の審議を再開したいと発言し、評議会は休止の理由がなくなったとして、議長の提案を了承し、継続議題として審議を再開することとなりました。

評議会の議長としては、評議会において十分慎重公正な審議が行われることに万全を期していません。

各位のご理解をお願いする次第であります。

昭和52年2月15日

京都大学総長 岡 本 道 雄

昭和52年度入学者選抜学力試験の実施計画

昭和52年度の本学入学試験については、総長を委員長とする入学試験委員会を中心に、実施計画の検討が進められてきたが、その主要な点は次のとおりである。

1. 期日および教科
 - 3月3日(木) 国語, 数学
 - 3月4日(金) 外国語, 理科
 - 3月5日(土) 社会
2. 入学試験場の割当て

学 部	試 験 場
文 学 部	教養部
教 育 学 部	関西文理学院
法 学 部	法学部, 経済学部
経 済 学 部	京都予備校
理 学 部	関西文理学院
医 学 部	医学部, 附属病院
薬 学 部	薬学部
工 学 部	工学部
農 学 部	農学部

なお、入学願書の受理は、2月1日から10日の間に各学部で行われたが、昭和52年度の入学志願者状況は次のとおりである。

昭和52年度入学志願者数

学 部	募 集 人 員	志 願 者 数	倍 率	51年度	
				志 願 者 数	倍 率
文 学 部	200人	954人	4.8	1,096人	5.5
教 育 学 部	50	260	5.2	269	5.4
法 学 部	330	1,487	4.5	1,482	4.5
経 済 学 部	200	672	3.4	930	4.7
理 学 部	281	1,199	4.3	1,281	4.6
医 学 部	120	700	5.8	769	6.4
薬 学 部	80	274	3.4	271	3.4
工 学 部	945	2,809	3.0	2,757	2.9
土木系学科	120	242	2.0	324	2.7
機械系学科	100	285	2.9	290	2.9
電気系学科	120	357	3.0	406	3.4
金属系学科	75	239	3.2	144	1.9
建築系学科	90	386	4.3	374	4.2
資源工学科	35	131	3.7	98	2.8
工業化学科	50	133	2.7	76	1.5
石油化学科	55	162	2.9	164	3.0
化学工学科	40	86	2.2	97	2.4
高分子化学科	40	92	2.3	79	2.0
航空工学科	20	110	5.5	82	4.1
原子核工学科	20	85	4.3	100	5.0
衛生工学科	40	112	2.8	83	2.1
数理工学科	40	90	2.3	115	2.9
合成化学科	40	94	2.4	128	3.2
情報工学科	40	111	2.8	117	2.9
物理工学科	20	94	4.7	80	4.0
農 学 部	300	820	2.7	1,084	3.6
計	2,506	9,175	3.7	9,939	4.0

〈 紹 介 〉

経済学部の「上野文庫」

経済学部図書室には、五種類の特殊文庫が所蔵されている。ピューヒヤー文庫 (11,466冊), マイヤー文庫 (15,012冊), 河上文庫 (2,415冊), 財部文庫 (4,746冊)と並んで、上野文庫がある。上野文庫は、洋書 18,871冊・和書 3,364冊からなり、合計22,235冊で、冊数からみて経済学部所蔵文庫のなかで最大のものである。おそらく京都大学のどの文庫よりも多いと思われる。

この文庫は、朝日新聞社前社主、故上野精一翁が1911年に入社されて以来、1970年に逝去されるまで、新聞の実物および新聞研究文献を中心に、政治・社会・経済・文学・哲学・宗教など多くの領域にわたって、精力的に蒐集されたものである。新聞関係の文庫としては、東大の明治文庫と並んでわが国での屈指の文庫といわれている。翁は生涯、朝日新聞社の経営にたずさわるかたわら、言論・出版の自由、新聞の自由に深い関心を示し、新聞の起源と発展を自ら研究される学究の徒であった。翁はいくつかの研究成果を発表されているが、その中に『英国新聞史論』（内外社）や石田憲次博士・吉田新吾氏との共訳、ジョン・ミルトンの『アリオパジーティカ』（岩波文庫）がある。

この文庫がどのようにして経済学部に寄贈されたかは、出口勇蔵名誉教授の「上野文庫由来記」（『上野文庫解題目録』あとがき）に詳しく記され

ている。この文庫の特色の一端を簡単にしるそう。特筆すべきはイギリスの新聞の実物が、丹念に蒐集されていることであろう。チャールズ一世の「お布告がき」（1608年）から始まって、ピューリタン革命前期の議会議事録や革命最中のピューリタン派の新聞「メルクゥリウス・ブリタニクス」（Mercurius Britanicus）、ジョン・ミルトンの編集した「メリクゥリウス・ポリティクス」（Mercurius Politicus）など、数多くの歴史的な資料が所蔵されている。今日のジャーナリズムの起源が、議会における日々の出来事の報道（Diurnal Occurrences）にあったことが、実物によって明らかになる。また、活字でなく筆写した新聞「ニュース・レターズ」（1690年）も、大へん珍しいものである。これらを手にとると、イギリスの17世紀の新聞は、政治的主張をかかげてあらわれていることが、ひしひしと伝わってくる。18世紀に入ると、新聞にも経済・風俗記事がみられるようになり、夕刊や雑誌も出版され、これらが何種類か集められている。19世紀の産業革命期の社会運動の代表的機関紙「チャーチスト・サーキュラー」も、この文庫の特色である。そのほか、ドイツ語で書かれたパーゼル発行の新聞や徳川時代の瓦版も散見される。

1961年までに受入れた資料は『上野文庫解題目録』全3冊に収められており、この文庫に深い関心のある研究者にはこれを提供することになっている。

〈 訃 報 〉

2月7日 三林隆吉名誉教授（元医学部教授）逝去